

2020 年度（令和 2 年度）

シラバス

理学療法学科 昼間部

履正社医療スポーツ専門学校

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	生理学Ⅲ		担当教員	井口 祥平、高森 康晴、竹田 耕平		
実習内容	実務経験					
授業概要	この講義では、生理学的知識をもとにして、筋電図・心電図測定により身体状況を把握する方法を学ぶ。また、再生医療やサルコペニアなど医学のトピックスを生理学的側面より学ぶ。また、臨床では服薬状況を把握したうえで、理学療法の実践が必要となるため、薬理作用と理学療法との関連を学ぶ。					
達成目標	①筋電図の原理と測定方法が理解できる。 ②心電図の原理と測定方法が理解できる。 ③再生医療と理学療法の関連を考えることができる。 ④老化に関わる理学療法を生理学的側面から理解できる。 ⑤薬理作用と理学療法の関連が理解できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	EMG(随意運動と表面筋電図)	事前:骨格筋の解剖生理、収縮メカニズム、活動電位の整理 事後:筋電図の概要を整理		1	
	2	EMG測定	事前:骨格筋の解剖生理、収縮メカニズム、活動電位の整理 事後:筋電図の概要を整理		1	
	3	ECG(安静時・運動時の記録と解析)	事前:心臓の構造、ポンプ機能の整理 事後:ECGの原理、波形の意味を整理		1	
	4	ECG測定	事前:心臓の構造、ポンプ機能の整理 事後:ECGの原理、波形の意味を整理		1	
	5	レビュー(EMG&ECG) (以上、井口)	事後:EMGとECGを自身で測定できるようにすること。		1	
	6	再生医学基礎	事前:細胞の基本構造、発生・分化の予習 事後:講義内容の復習		1	
	7		事前:細胞の基本構造、発生・分化の予習 事後:講義内容の復習		1	
	8	老化	事前:生体の生理学的機能(血圧、代謝・循環、筋生理など)の予習 事後:講義内容の復習		1	
	9		事前:生体の生理学的機能(血圧、代謝・循環、筋生理など)の予習 事後:講義内容の復習		1	
	10	病態生理 (以上、高森)	事前:生体の生理学的機能(血圧、代謝・循環、筋生理など)の予習 事後:講義内容の復習		1	
	11	薬理 (以上、竹田)	事前:ヒトの情報伝達方法について(神経、ホルモンetc)の予習、感覚受容器の予習、炎症 事後:講義内容の復習		1	
	12		事前:ヒトの情報伝達方法について(神経、ホルモンetc)の予習、感覚受容器の予習、炎症 事後:講義内容の復習		1	
	13		事前:ヒトの情報伝達方法について(神経、ホルモンetc)の予習、感覚受容器の予習、炎症 事後:講義内容の復習		1	
	14		事前:ヒトの情報伝達方法について(神経、ホルモンetc)の予習、感覚受容器の予習、炎症 事後:講義内容の復習		1	
	15		事前:ヒトの情報伝達方法について(神経、ホルモンetc)の予習、感覚受容器の予習、炎症 事後:講義内容の復習		1	
授業方法	講義、実技					
評価方法	レポート、筆記試験、出席点、授業態度					
テキスト	配布資料					
参考文献	岡田隆夫/他著 『標準理学療法学・作業療法学 生理学』 医学書院 小澤澗司/他監 『標準生理学』 医学書院 大地 陸男/著 『生理学テキスト』 文光堂					
履修上の注意事項	心電図、筋電図測定は実技となるため、軽装を用意してください。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期	分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	運動生理学	担当教員	狩野 祐司		
		実務経験	○		
実習内容	PT・ATで経験したトレーナー活動を教育現場で指導				
授業概要	座学。生理学を発展させた内容。運動することによってどのように生理学的な変化を体が示すのかを理解する。				
達成目標	理学療法士に求められる臨床に必要な動的生理学(運動生理学)の楽しさを知る。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	イントロダクション			
	2	筋肉の運動生理学1	事前:筋の生理学を復習 事後:講義の復習		0.75
	3	筋肉の運動生理学2	事後:講義の復習		0.5
	4	神経の運動生理学1	事前:神経の生理学を復習 事後:講義の復習		0.5
	5	神経の運動生理学2	事後:講義の復習		0.5
	6	感覚の運動生理学	事後:講義の復習		0.5
	7	呼吸の運動生理学	事後:講義の復習		0.5
	8	循環の運動生理学1	事後:講義の復習		0.5
	9	循環の運動生理学2	事後:講義の復習		0.5
	10	血液の運動生理学	事後:講義の復習		0.5
	11	内分泌の運動生理学	事後:講義の復習		0.5
	12	体温調節の運動生理学	事後:講義の復習		0.5
	13	栄養の運動生理学	事後:講義の復習		0.5
	14	加齢の運動生理学	事後:講義の復習		0.5
	15	まとめ	事後:講義の復習		0.5
授業方法	座学。教科書を使用しての理解を深める。図表から運動による生理学的変化を理解する				
評価方法	期末テスト				
テキスト	春日規克/他編著 『運動生理学の基礎と発展』 フリースペース				
参考文献	生理学テキスト				
履修上の 注意事項	生理学の講義を思い出して、何が理解できなかったのか事前に自己評価してください。				

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	運動学Ⅱ		担当教員	山口 宗明		
実習内容	実務経験					
授業概要	前半では、体幹から足関節までの骨と関節運動、筋活動について学ぶ。 後半では、歩行周期、筋活動、時間的空間的指標について学ぶ。					
達成目標	単元ごとに、運動学的、運動力学的事実を理解し、説明が出来る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	体軸骨格 骨(1) 頸椎 胸椎	事後:講義内容の復習		1	
	2	体軸骨格 骨(2) 腰椎 仙腸関節	事後:講義内容の復習		1	
	3	体軸骨格 筋(1) 頸椎 胸椎	事後:講義内容の復習		1	
	4	体軸骨格 筋(2) 腰椎	事後:講義内容の復習		1	
	5	股関節 骨と関節運動	事後:講義内容の復習		1	
	6	股関節 筋機能	事後:講義内容の復習		1	
	7	膝関節 骨と関節運動	事後:講義内容の復習		1	
	8	膝関節 筋機能	事後:講義内容の復習		1	
	9	足関節と足部 骨と関節運動	事後:講義内容の復習		1	
	10	足関節と足部 筋機能	事後:講義内容の復習		1	
	11	歩行 空間的、時間的指標	事後:講義内容の復習		1	
	12	歩行 周期	事後:講義内容の復習		2	
	13	歩行 各関節運動	事後:講義内容の復習		1	
	14	歩行 筋活動	事後:講義内容の復習		1	
	15	運動学総括	事後:講義内容の復習		1	
授業方法	講義					
評価方法	定期試験、授業態度					
テキスト	嶋田智明/監訳 『筋骨格系のキネシオロジー』 医歯薬出版株式会社					
参考文献						
履修上の 注意事項	分からないことはそのままにせずに、必ず理解に努めること 復習を欠かさないこと					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	病理学		担当教員	田村 泰久		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	病理学は、正常状態(生理状態)における各組織・臓器の構造や機能をもとに、病態時での各組織・臓器での構造や機能変化および病態からどのように回復するのかを学び、疾患の病因・病態・治療・予後について理解することを目的とする学問である。					
達成目標	1. 人体の構造と機能について説明できる。 2. 主要な疾病の病因、病態、治療、予後について説明できる。 3. 疾病がもたらす機能障害について説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	病理学とは何か?	事前:人体の各組織・臓器の構造や機能について理解しておく。		2	
	2	細胞の構造と機能	事前:人体の各組織・臓器の構造や機能について理解しておく。		2	
	3	細胞傷害と細胞増殖	事前:細胞の構造と機能について理解しておく。		1	
	4	組織、細胞の修復と再生	事前:細胞の構造と機能について理解しておく。		1	
	5	循環障害	事前:血液循環について理解しておく。		1	
	6	炎症	事後:急性炎症と慢性炎症の違いについて復習する。		2	
	7	免疫機構の異常	事後:免疫担当細胞および自己免疫疾患およびアレルギーについて復習する。		2	
	8	老化	事後:加齢に伴う各臓器の機能低下(病態)について復習する。		1	
	9	腫瘍1	事後:腫瘍の分類や名称について復習する。		2	
	10	腫瘍2	事後:腫瘍の発生・発育・進展について復習する。		2	
	11	感染症1	事後:病原微生物について復習する。		2	
	12	感染症2	事後:病原微生物の感染経路、感染力および宿主防御について復習する。		2	
	13	遺伝と先天異常	事前:遺伝子・染色体について理解しておく。		1	
	14	代謝異常	事前:3大栄養素について理解しておく。		2	
	15	まとめ	事後:全内容について総復習する。		4	
授業方法	教科書および配布資料にそって解説する。					
評価方法	筆記試験					
テキスト	笹野公伸/他 『シンプル病理学』 南江堂					
参考文献						
履修上の注意事項	人体に発生しうるさまざまな異常を病理学の立場から概念的にとらえることに主眼を置く。したがって、各疾患を臓器別に捉える各論よりも、病理学の総論を中心に講義を進める。必要に応じて各論も参照する。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	臨床心理学		担当教員	安田 傑		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	<p>「臨床心理学」では、前半はクライアントの心の特性・状態を測定・分析する「心理アセスメント」を扱います。後半は、測定結果に基づき悩みを解決するサポートを行う「心理療法」を扱います。心理アセスメントも心理療法も、どちらも様々な理論や手法が存在するために、それぞれの特徴を理解し、自らの適性やクライアントの状態に応じた使い分けが必要となります。そのために必要な知識や技術を、この授業では学んでいきます。</p>					
達成目標	<p>1. 心理テストの6カテゴリーを理解できる。 2. 主要な心理テストを体験し、その結果の見かたが分かる。 3. 心理療法の3大主流(精神力動的理論、認知行動療法、人間性心理学)の違いが理解できる。 4. 心理療法の進め方、流れ、注意点を理解できる。</p>					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	心理アセスメント概論	事前: 日常で紹介される心理テストを体験する 事後: 日常の心理テストと、医療現場の心理テストの違いについて整理する		2	
	2	神経心理学的検査・作業検査法(内田クリペリンテスト・ベントン視覚記銘検査・MMSEの実施)	事前: 神経心理学的検査・作業検査法の概論を復習 事後: 授業中に体験した検査の結果を自分なりに整理する		2	
	3	質問紙法1(YG性格検査とMMPIの実施)	事前: 質問紙法の概論を復習。MMPIの予習 事後: 授業中に体験した検査の結果を自分なりに整理する		4	
	4	質問紙法2(CMI, GHQ, STAIの実施、その他の質問紙法の説明)	事前: 質問紙法の概論を復習 事後: 授業中に体験した検査の結果を自分なりに整理する		2	
	5	投映法(SCTの実施、その他の投映法の説明)	事前: 投映法の概論を復習 事後: 授業中に体験した検査の結果を自分なりに整理する		2	
	6	知能検査(WAISのビデオ上映、その他の知能検査の説明)	事前: 知能検査の概論を復習 事後: 授業で扱った知能検査の実施方法について復習する		2	
	7	発達検査(発達障害の説明とビデオ上映・発達検査の説明)	事前: 発達障害について予習する 事後: 発達障害と発達検査の対応を復習する		2	
	8	精神力動的理論による心理療法	事前: フロイトの理論の復習		2	
	9	行動療法1	事前: 学習心理学の理論の復習		2	
	10	行動療法2	事前: 学習心理学の理論、行動療法1の復習		2	
	11	認知療法、論理療法、認知行動療法	事前: 行動療法の復習 事後: 行動療法や認知行動療法の内容を整理		2	
	12	人間性心理学1(来談者中心療法、エンカウンターグループ)	事前: 精神力動的理論と認知行動療法を復習 事後: ロジャーズのカウンセリング方法の復習		2	
	13	人間性心理学2(ゲシュタルト療法、交流分析)	事前: 人間性心理学1の復習 事後: 人間性心理学の理論を整理		2	
	14	その他の心理療法	事前: 精神力動的理論、認知行動療法、人間性心理学の復習		2	
	15	まとめ	事前: これまでの心理学の授業内容を総復習		2	
授業方法	板書を中心とした講義を行う。また、必要に応じて動画上映やレジュメ配布を行う。					
評価方法	定期試験(100%)					
テキスト	必要に応じて、レジュメを事前配布する。					
参考文献	石田彰、池田まさみ/編著 『臨床心理学用語辞典』 オーム社					
履修上の注意事項						

開講時期	2年生 昼間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	内科学 I		担当教員	神前 格		
			実務経験	○		
実習内容	内科分野の特徴、疾患症状を実際の臨床経験を踏まえて指導					
授業概要	各疾患の病因・病態を理解し、症状・臨床経過・治療法を学ぶ。					
達成目標	①各疾患の病因・病態・検査所見・症状・臨床経過・治療法を説明することが出来る。 ②各疾患の治療における理学療法役割を説明出来る。					
			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)			
授 業 計 画	1	内科学総論 I	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	2	内科学総論 II	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	3	循環器疾患 I	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	4	循環器疾患 II	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	5	循環器疾患 III	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	6	呼吸器疾患 I	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	7	呼吸器疾患 II	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	8	呼吸器疾患 III	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	9	プレゼンテーション I + 小テスト I	事前:教科書・レジュメ・資料の復習 事後:小テストの復習			2
	10	消化器疾患 I	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	11	消化器疾患 II	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	12	消化器疾患 III	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	13	肝・胆・膵疾患 I	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	14	肝・胆・膵疾患 II	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習			2
	15	プレゼンテーション II + 小テスト II	事前:教科書・レジュメ・資料の復習 事後:小テストの復習			2
授業方法	講義:レジュメと資料を毎回配布します。					
評価方法	小テスト(2回で40点)プレゼンテーション(2回で20点)期末試験(40点)					
テキスト	大成浄志/著 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』 医学書院					
参考文献	『新臨床内科学』 医学書院					
履修上の 注意事項						

開講時期	2年生 昼間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	内科学Ⅱ		担当教員	神前 格		
			実務経験	○		
実習内容	内科分野の特徴、疾患症状を実際の臨床経験を踏まえて指導					
授業概要	各疾患の病因・病態を理解し、症状・臨床経過・治療法を学ぶ。					
達成目標	①各疾患の病因・病態・検査所見・症状・臨床経過・治療法を説明することが出来る。 ②各疾患の治療における理学療法役割を説明出来る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	血液疾患Ⅰ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	2	血液疾患Ⅱ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	3	血液疾患Ⅲ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	4	代謝性疾患Ⅰ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	5	代謝性疾患Ⅱ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	6	プレゼンテーションⅠ＋小テストⅠ	事前:教科書・レジュメ・資料の復習 事後:小テストの復習		2	
	7	内分泌疾患Ⅰ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	8	内分泌疾患Ⅱ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	9	腎臓泌尿器疾患Ⅰ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	10	腎臓泌尿器疾患Ⅱ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	11	アレルギー疾患・膠原病Ⅰ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	12	アレルギー疾患・膠原病Ⅱ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	13	アレルギー疾患・膠原病Ⅲ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	14	感染症・中毒	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		2	
	15	プレゼンテーションⅡ＋小テストⅡ	事前:教科書・レジュメ・資料の復習 事後:小テストの復習		2	
授業方法	講義:レジュメと資料を毎回配布します。					
評価方法	小テスト(2回で40点)プレゼンテーション(2回で20点)期末試験(40点)					
テキスト	大成浄志/著 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』 医学書院					
参考文献	『新臨床内科学』 医学書院					
履修上の 注意事項						

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	整形外科学 I		担当教員	柴田 勝博		
			実務経験	○		
実習内容	整形外科の特徴、疾患症状を実際の臨床経験を踏まえて指導					
授業概要	テキストを中心に、整形外科に必要な基礎知識の整理と専門知識の獲得。一部実地訓練も行う。					
達成目標	整形外科疾患における病態の理解し、理学療法等に必要な知識を得る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	総論、整形外科とは		事前:テキストで範囲確認		2
	2	骨の構造、生理、化学		事前:テキストで範囲確認		2
	3	骨の発生、成長、維持		事前:テキストで範囲確認		2
	4	骨の病態生理		事前:テキストで範囲確認		2
	5	関節の構造と生化学		事前:テキストで範囲確認		2
	6	骨・軟骨の損傷修復と再生		事前:テキストで範囲確認		2
	7	筋の構造、生理、化学		事前:テキストで範囲確認		2
	8	神経の構造、生理、化学と痛みの生理学		事前:テキストで範囲確認		2
	9	整形外科診断総論①		事前:テキストで範囲確認		2
	10	整形外科診断総論②		事前:テキストで範囲確認		2
	11	整形外科治療総論①		事前:テキストで範囲確認		2
	12	整形外科治療総論②		事前:テキストで範囲確認		2
	13	整形外科疾患総論①		事前:テキストで範囲確認		2
	14	整形外科疾患総論②		事前:テキストで範囲確認		2
	15	まとめ、重要ポイントの整理		事後:当日の内容を復習		2
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記試験のみ					
テキスト	井樋栄二/他編 『標準整形外科学』 医学書院					
参考文献	特になし					
履修上の 注意事項	特になし					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	整形外科Ⅱ		担当教員	柴田 勝博		
			実務経験	○		
実習内容	整形外科の特徴、疾患症状を実際の臨床経験を踏まえて指導					
授業概要	テキストを中心に、整形外科に必要な基礎知識の整理と専門知識の獲得。一部実地訓練も行う。					
達成目標	整形外科疾患における病態の理解し、理学療法等に必要な知識を得る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	各論(肩関節)	事前:テキストで範囲確認			2
	2	各論(肘関節)	事前:テキストで範囲確認			2
	3	各論(手関節と手)	事前:テキストで範囲確認			2
	4	各論(頸椎、胸椎)	事前:テキストで範囲確認			2
	5	各論(胸郭、腰椎)	事前:テキストで範囲確認			2
	6	各論(股関節)	事前:テキストで範囲確認			2
	7	各論(膝関節)	事前:テキストで範囲確認			2
	8	各論(足関節と足)	事前:テキストで範囲確認			2
	9	各論(関節リウマチ)	事前:テキストで範囲確認			2
	10	各論(外傷総論)	事前:テキストで範囲確認			2
	11	各論(骨折・脱臼)	事前:テキストで範囲確認			2
	12	各論(脊椎・脊髄損傷)	事前:テキストで範囲確認			2
	13	各論(末梢神経障害)	事前:テキストで範囲確認			2
	14	各論(スポーツ傷害、障害者スポーツ)	事前:テキストで範囲確認			2
	15	各論(義肢等)、まとめ	事後:当日の内容を復習			2
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記試験のみ					
テキスト	井樋栄二/他編 『標準整形外科学』 医学書院					
参考文献	特になし					
履修上の 注意事項	特になし					

開講時期	2年生 昼間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	神経内科学 I		担当教員	榎木 英介		
実習内容			実務経験			
授業概要	理学療法士にとって必要な神経内科学について学習する。神経内科学 I では総論について学ぶ。					
達成目標	中枢神経系の解剖と機能について説明できる。国家試験問題を理解し、解答できるようになる。 神経学的診断、検査について説明できる 神経内科学的な疾患の総論について述べるができる。 高次脳機能障害について述べるができる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	イントロダクション、障害とリハビリテーション	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	2	中枢神経系の解剖と機能	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	3	神経学的診断と評価	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	4	神経学的検査法	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	5	意識障害・脳死・植物状態	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	6	頭痛、めまい、失神、運動麻痺、椎体路徴候、筋萎縮	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	7	椎体外路徴候、不随意運動、運動失調	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	8	感覚障害	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	9	高次脳機能障害総論 失語症	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	10	高次脳機能障害 失行、記憶障害	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	11	高次脳機能障害 注意障害、追行(実行)機能障害	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	12	構音障害、嚥下障害	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	13	脳神経外科領域疾患の代表的徴候	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	14	まとめ、予備日	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	15	問題演習	事後:演習問題について、解答できなかった問題を中心に復習をすること。		2	
授業方法	講義を行う。テキストとともにレジュメを配布し解説する。					
評価方法	期末試験によって達成度を評価する。					
テキスト	川平和美/編 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 神経内科学』 医学書院					
参考文献	随時資料配布。					
履修上の注意事項	授業は真剣に取り込むこと。復習が時に大切である。					

開講時期	2年生 昼間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	神経内科学Ⅱ		担当教員	榎木 英介		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	理学療法士にとって必要な神経内科学について学習する。神経内科学Ⅱでは各論について学ぶ。					
達成目標	神経内科学の各論について概要を説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	脳血管障害	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	2	認知症	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	3	脳腫瘍	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	4	外傷性脳損傷	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	5	脊髄疾患	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	6	変性疾患、脱髄疾患	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	7	錐体外路の変性疾患	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	8	末梢神経障害	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	9	てんかん	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	10	筋疾患	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	11	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	12	小児神経疾患	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	13	廃用症候群と誤用症候群	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	14	排尿障害、性機能障害	事後:学習内容の復習をすること。		2	
	15	まとめと問題演習	事後:間違えた問題を中心に復習すること。		2	
授業方法	講義を行う。テキストとともにレジユメを配布し解説する。					
評価方法	期末試験によって達成度を評価する。					
テキスト	川平和美/編 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 神経内科学』 医学書院					
参考文献	随時資料配布。					
履修上の 注意事項	授業は真剣に取り込むこと。復習が時に大切である。					

開講時期	2年生 昼間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	脳神経外科学		担当教員	市田 修一、吉岡 久美		
実習内容			実務経験			
授業概要	脳神経外科領域の疾患に対する知識や概念を学修し、理学療法評価や治療に繋げていく。					
達成目標	脳・神経系疾患の概要がわかる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	脳の解剖	事前:神経系の解剖・生理学の復習 事後:講義の復習		2	
	2	画像検査の基礎知識、診方	事前:脳・神経系の解剖学の復習 事後:講義の復習		2	
	3	意識障害、運動麻痺、頭部外傷	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	4	脳浮腫、脳ヘルニア、脳死	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	5	脳腫瘍概論	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	6	脳腫瘍各論	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	7	脳血管障害概論	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	8	脳血管障害各論	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	9	脳血管障害各論	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	10	頭部外傷概論	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	11	頭部外傷各論	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	12	脊髄・脊椎疾患概論	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	13	脊髄・脊椎疾患各論	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	14	先天奇形概論	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
	15	頭痛、てんかん	事前:教科書該当箇所の予習 事後:講義の復習		2	
授業方法	講義					
評価方法	筆記試験(市田、吉岡それぞれで作成)、授業態度、出席状況により総合的に判定					
テキスト	児玉南海雄/著 『標準脳神経外科学』 医学書院					
参考文献	医療情報科学研究所/編 『病気がみえる7 脳・神経』 メディックメディア					
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加し、知識を深めること 1～9は吉岡、10～15は市田が担当する					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	精神医学		担当教員	山野 恵美		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	「こころ」や思考はそのヒトの気質・性格・身体のおかれた状況などによりきわめて個性的にはたらく。そうした「こころ」や思考を体系的に捉えようとした精神医学的な考え方を習得し、そのうえで、医療現場における患者の精神・神経・身体状況をより深く理解できることを目標とする。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 気分障害・不安障害や統合失調症をはじめとするこころの病気と脳機能のはたらきを照らし合わせて理解できる。 2. 脳の器質的疾患について理解できる。 3. 各疾患の治療薬に関して作用メカニズムを理解できる。 4. 精神作用物質やその障害について理解できる。 5. ヒトの精神・神経・身体の連関を理解できる。 					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	精神医学とは	事前:精神医学の関連内容を予習		2	
	2	脳とこころ	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	3	気分障害	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	4	うつ病	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	5	不安障害	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	6	不安障害	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	7	統合失調症	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	8	人格・行動障害	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	9	児童・青年期および高齢者の精神医学	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	10	精神作用物質使用による障害	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	11	脳器質的疾患	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	12	脳器質的疾患	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	13	睡眠およびその障害・てんかん	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	14	心理療法・薬物療法	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
	15	まとめ	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		4	
授業方法	テキストやプリントを用いながら、黒板を使用して解説する。適宜、プロジェクターによる映写も併用する。					
評価方法	筆記試験					
テキスト	越野好文/他著 『好きになる精神医学』 講談社 太田保之/他著 『学生のための精神医学』 医歯薬出版					
参考文献						
履修上の注意事項	授業での学習内容を復習すること					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期	分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	リハビリテーション医学	担当教員	池尾 忠思		
		実務経験	○		
実習内容	リハビリテーションの知識、技術を指導				
授業概要	リハビリテーション医学の基礎や障がい学、評価法及び治療学の基礎を学ぶ。				
達成目標	理学療法士として必要なリハビリテーション医学の知識と技術を身につける。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	リハビリテーション概論(語源・理念等)	事後:授業内容の復習	1	
	2	リハビリテーション医学(分類・障がい)	事前:リハビリ概論の復習 事後:分類・障がいについて復習	2	
	3	リハビリテーション医学の評価法(評価について)	事前:障がいについて復習 事後:評価の目的について復習	2	
	4	身体計測・筋力テスト	事前:身体計測について予習 事後:筋力テストについて復習	2	
	5	関節可動域テスト等	事前:関節可動域について予習 事後:関節可動域について復習	2	
	6	ADL評価	事前:ADLについて予習 事後:ADLについて復習	2	
	7	中枢性運動障がいの評価	事前:中枢神経について予習 事後:評価について復習	2	
	8	運動失調の評価	事前:小脳について予習 事後:評価について復習	2	
	9	失行・失認の評価	事前:高次脳について予習 事後:評価について復習	2	
	10	心理評価・認知症の評価	事前:認知症について予習 事後:評価について復習	2	
	11	リハビリテーションの治療(理学療法)	事前:理学療法について予習 事後:理学療法について復習	2	
	12	〃 (作業療法)	事前:作業療法について予習 事後:作業療法について復習	2	
	13	〃 (言語聴覚療法)	事前:言語聴覚療法について予習 事後:言語聴覚療法について復習	2	
	14	リハビリテーション医学と関連職種	事前:関連職種について予習 事後:関連職種について復習	2	
	15	チームアプローチ	事前:リハチームについて予習 事後:チームの役割について復習	2	
授業方法	適宜プリントを配布し、ポイントをノートにまとめる。				
評価方法	筆記試験、出席率、授業態度				
テキスト	なし				
参考文献	最新リハビリテーション医学 標準リハビリテーション医学 リハビリテーション総論				
履修上の 注意事項					

開講時期	2年生 昼・夜間部 通年	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法研究法 I	担当教員	専任教員、他		
		実務経験			
実習内容					
授業概要	4分野に分かれ、ゼミナール形式で学習を進める。 その前段階として、それぞれの教員よりテーマを発表する。				
達成目標	近年、理学療法を実施するにあたり、エビデンスの構築が求められる。マニュアル通りの理学療法では対処できないことの方が多く、科学的、論理的に考え、治療方針を立てることが重要となる。本科目では4つの専門分野に分かれ、専門的な活動を通して論理的な思考を獲得する。				
授 業 計 画	1	研究とは			
	2				
	3	【授業方法】			
	4	1) 教員よりテーマを指示するので、希望の講座を申し出ること。			
	5	2) 諸都合により、希望以外の講座となることもある。			
	6	3) 活動内容は、担当教員の指示を仰ぐこと。			
	7	【内容】			
	8	医療分野			
	9	福祉分野			
	10	スポーツ分野			
	11	保健分野			
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	講義、研究活動、フィールドワーク				
評価方法	報告書、出席				
テキスト					
参考文献					
履修上の 注意事項	ゼミナールの進行に関しては各担当教員の指示を仰ぐこと				

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法研究法Ⅱ	担当教員	専任教員		
		実務経験			
実習内容					
授業概要	4分野に分かれ、ゼミナール形式で学習を進める。				
達成目標	近年、理学療法を実施するにあたり、エビデンスの構築が求められる。マニュアル通りの理学療法では対処できないことの方が多く、科学的、論理的に考え、治療方針を立てることが重要となる。本科目では4つの専門分野に分かれ、専門的な活動を通して論理的な思考を獲得する。				
授 業 計 画	1	【授業方法】			
	2	1) 教員よりテーマを指示するので、希望の講座を申し出ること。			
	3	2) 諸都合により、希望以外の講座となることもある。			
	4	3) 活動内容は、担当教員の指示を仰ぐこと。			
	5	【内容】			
	6	医療分野			
	7	福祉分野			
	8	スポーツ分野			
	9	保健分野			
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	研究活動、フィールドワーク				
評価方法	報告書、出席				
テキスト					
参考文献					
履修上の 注意事項	ゼミナールの進行に関しては各担当教員の指示を仰ぐこと				

開講時期	2年生 昼・夜間部 集中		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法基礎実習Ⅱ		担当教員	専任教員		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	見学体験実習で経験する検査・測定の実技テストを通して、基本的な検査・測定技術を再確認する。 医療・福祉・保健機関においての見学体験実習を行う。					
達成目標	基本的な検査測定を対象者に行うことができる。 理学療法業務全体をより具体的に知る。 理学療法の対象者についての理解を深める。 今後の学習課題を探究する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	検査・測定実技テスト	事前:ROM-T、MMT、形態測定、生理機能検査の総復習			10
	2					
	3	実習前全体オリエンテーション	事前:実習要項・感染症ガイドラインを熟読する			1
	4					
	5	実習前個別オリエンテーション	事前:実習前レポート作成 事後:実習前レポート修正			2
	6	臨床見学体験実習	事前:日々の計画を立てる 事後:日々の行動を振り返る			各1
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14	実習後全体オリエンテーション	事前:提出物準備			1
	15	実習後個別フィードバック	事後:実習報告書修正			1
授業方法	見学・体験実習。 実習指導者および実習担当教員による個別面談。					
評価方法	検査・測定実技テスト 出席率、提出課題、臨床指導者評価を基に各担当教員が評価を行う。(実習)					
テキスト	特に定めず。					
参考文献						
履修上の 注意事項	臨床見学体験実習施設の職員、指導者の指示に従い、本校学生の立場をわきま え行動すること。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学Ⅴ		担当教員	吉岡 久美		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	脳血管障害を中心とした運動機能障害の検査・測定方法の意義と技術を学習する。 臨床での頻度が高いものを中心に学習するが、文献や国家試験で用いられる項目についても学習する。					
達成目標	運動機能を中心とした神経系疾患の検査・測定方法を理解し、実施・記録できる。 個々の病態に即した検査・測定方法の選択が行える。 (検査・測定の結果から患者の状態が想定できる。)					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	神経学的検査総論	事前:神経系の解剖・整理学の復習 事後:講義の復習		2	
	2	運動麻痺検査(軽い片麻痺の診かた)	事前:錐体路の復習 事後:講義の復習		2	
	3	運動麻痺検査(BRST)	事前:錐体路の復習 事後:講義の復習		2	
	4	運動麻痺検査(BRST)	事前:錐体路の復習 事後:講義の復習		2	
	5	運動麻痺検査(12段階片麻痺機能検査)	事前:錐体路の復習 事後:講義の復習		2	
	6	運動麻痺検査(12段階片麻痺機能検査)	事前:錐体路の復習 事後:講義の復習		2	
	7	運動麻痺検査(FMA)	事前:錐体路の復習 事後:講義の復習		2	
	8	運動麻痺検査(SIAS)	事前:錐体路の復習 事後:講義の復習		2	
	9	協調性検査	事前:錐体外路の復習 事後:講義の復習		2	
	10	協調性検査	事前:錐体外路の復習 事後:講義の復習		2	
	11	反射・反応検査	事前:発達の復習 事後:講義の復習		2	
	12	反射・反応検査	事前:発達の復習 事後:講義の復習		2	
	13	反射・反応検査	事前:発達の復習 事後:講義の復習		2	
	14	反射・反応検査	事前:発達の復習 事後:講義の復習		2	
	15	筋緊張検査	事前:錐体路・錐体外路の復習 事後:講義の復習		2	
授業方法	講義と実技					
評価方法	筆記試験と実技試験を実施。授業態度、出席状況も加味する。					
テキスト	田崎義昭/他著 『ベッドサイドの神経の診かた』 南山堂 中島喜代彦/編 『理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法』 神陵文庫					
参考文献	細田多穂/他編 『理学療法ハンドブック』 協同医書出版社					
履修上の 注意事項	神経系の解剖・生理学がある程度理解していることを前提とする。 正常ではみられない検査・測定項目があるため、理解できないときは必ず質問をすること。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学Ⅵ		担当教員	吉岡 久美		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	脳血管障害を中心とした感覚機能障害の検査・測定方法の意義と技術を学習する。 脳神経や高次脳機能障害といった他職種が行う検査・測定を学習する。					
達成目標	感覚機能を中心とした神経系疾患の検査・測定方法を理解し、実施・記録できる。 個々の病態に即した検査・測定方法の選択が行える。 他職種による検査・測定の結果が理解できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	感覚検査(表在感覚)	事前:感覚経路の復習 事後:講義の復習		2	
	2	感覚検査(表在感覚)	事前:感覚経路の復習 事後:講義の復習		2	
	3	感覚検査(深部感覚)	事前:感覚経路の復習 事後:講義の復習		2	
	4	感覚検査(深部感覚)	事前:感覚経路の復習 事後:講義の復習		2	
	5	感覚検査(複合感覚)	事前:感覚経路の復習 事後:講義の復習		2	
	6	感覚検査(複合感覚)	事前:感覚経路の復習 事後:講義の復習		2	
	7	感覚検査まとめ	事前:講義の復習		2	
	8	疼痛評価	事前:疼痛とは何かを学習しておく 事後:講義の復習		2	
	9	脳神経検査	事前:脳神経の復習 事後:講義の復習		2	
	10	脳神経検査	事前:脳神経の復習 事後:講義の復習		2	
	11	脳神経検査	事前:脳神経の復習 事後:講義の復習		2	
	12	高次脳機能障害	事前:大脳皮質連合野の復習 事後:講義の復習		2	
	13	高次脳機能障害	事前:大脳皮質連合野の復習 事後:講義の復習		2	
	14	高次脳機能障害	事前:大脳皮質連合野の復習 事後:講義の復習		2	
	15	脳卒中総合評価(NIHSS、JSS)	事前:錐体路・錐体外路の復習 事後:講義の復習		2	
授業方法	講義と実技					
評価方法	筆記試験と実技試験を実施。授業態度、出席状況も加味する。					
テキスト	田崎義昭/他著 『ベッドサイドの神経の診かた』 南山堂 中島喜代彦/編 『理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法』 神陵文庫					
参考文献	細田多穂/他編 『理学療法ハンドブック』 協同医書出版社					
履修上の 注意事項	神経系の解剖・生理学がある程度理解していることを前提とする。 正常ではみられない検査・測定項目があるため、理解できないときは必ず質問をすること。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学Ⅶ		担当教員	井口 祥平		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	この授業の目的は、理学療法士に必要な評価能力の一つである「整形外科的テスト」と「実用性評価」について、その評価技術を学ぶとともに、結果の取り扱い方について学ぶことである。					
達成目標	①整形外科的徒手検査法の理論・方法・結果の解釈を理解し、説明ができる。 ②諸動作の実用性を判断でき身体機能との関連性を考察することができる。 ③すべての実技項目に関して独力で実践できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	整形外科的テストの概要	事前:理学療法プロセスの復習、ICFの復習 事後:判定方法について復習、感度・特異度の整理			1
	2	下肢の整形外科的テスト(股関節)	事前:股関節の関節構造、筋の整理 事後:テスト方法の実技復習、判定基準整理			1
	3	下肢の整形外科的テスト(膝関節)	事前:膝関節の関節構造、筋の整理 事後:テスト方法の実技復習、判定基準整理			1
	4	下肢の整形外科的テスト(足関節)	事前:足関節の関節構造、筋の整理 事後:テスト方法の実技復習、判定基準整理			1
	5	上肢の整形外科的テスト(肩関節)	事前:肩関節の関節構造、筋の整理 事後:テスト方法の実技復習、判定基準整理			1
	6	上肢の整形外科的テスト(肘関節)	事前:肘関節の関節構造、筋の整理 事後:テスト方法の実技復習、判定基準整理			1
	7	体幹の整形外科的テスト	事前:体幹関節の関節構造、筋の整理 事後:テスト方法の実技復習、判定基準整理			1
	8	体幹の整形外科的テスト	事前:体幹関節の関節構造、筋の整理 事後:テスト方法の実技復習、判定基準整理			1
	9	実用性の評価【安全性の評価】	事前:姿勢の定義の予習、姿勢制御の予習 事後:安全性評価の整理、基準の理解			1
	10	実用性の評価【安全性の評価】	事前:姿勢の定義の予習、姿勢制御の予習 事後:安全性評価の整理、基準の理解			1
	11	実用性の評価【速度性の評価】	事前:歩行周期、歩行速度など補講に関わる用語の確認 事後:速度性評価の整理、基準の理解			1
	12	実用性の評価【持久性の評価】	事前:ヒトの持久性を構成する要素についての整理 事後:持久性評価の整理、基準の理解			1
	13	ケースを用いて実践練習【整形外科的テスト】	事前:1～8回の内容を整理			1
	14	ケースを用いて実践練習【整形外科的テスト】	事前:1～8回の内容を整理			1
	15	まとめ				
授業方法	パワーポイントを用いた講義に加え、実技練習を多用する					
評価方法	授業態度、筆記試験、実技試験					
テキスト	配布資料					
参考文献	『PT・OTのための測定評価6 整形外科的検査』 三輪書店 『臨床評価指標入門 適用と解釈のポイント』 協同医書出版社					
履修上の 注意事項	実技が中心となるため、半袖・短パンなど身体を触知しやすい服装にすること					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	物理療法 I		担当教員	能登 洋平		
			実務経験	○		
実習内容	PT・ATで経験したトレーナー活動を教育現場で指導					
授業概要	この授業の目的は、理学療法士の治療方法の一つである「物理療法」について、その特徴と治療方法について学んでいく。					
達成目標	①各物理療法機器の特徴と使用方法を理解する。 ②疾患、症状に合わせた的確な物理療法機器の選択ができる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	物理療法総論(目的・定義・分類)	事前:理学療法プロセスの理解 事後:物理療法で用いる治療機器理解			1
	2	疼痛(炎症・組織損傷のメカニズム)について	事前:炎症の発生メカニズムの理解 事後:炎症の発生メカニズムの理解			1
	3	疼痛(炎症・組織損傷のメカニズム)について	事前:炎症の発生メカニズムの理解 事後:炎症の発生メカニズムの理解			1
	4	温熱療法総論(分類・適応・作用・禁忌など)	事前:温熱療法機器の理解 事後:温熱療法の作用の理解			1
	5	温熱療法各論(ホットパック、パラフィン浴)	事前:ホットパック、パラフィンの概要理解 事後:ホットパック、パラフィンの使用方法の理解			1
	6	温熱療法各論(赤外線、超短波、極超短波、超音波)	事前:赤外線、超短波、極超短波の概要理解 事後:赤外線、超短波、極超短波の使用法の理解			1
	7	温熱療法実習	事前:各機器の使用法の理解 事後:各機器の使用法の復習			1
	8	温熱療法実習	事前:各機器の使用法の理解 事後:各機器の使用法の復習			1
	9	寒冷療法総論(分類・適応・作用・禁忌など)	事前:寒冷療法機器の理解 事後:寒冷療法の作用の理解			1
	10	寒冷療法各論(コールドパック、アイスバッグ、クリッカー)	事前:コールドパック、アイスバッグ、クリッカーの概要理解 事後:コールドパック、アイスバッグ、クリッカーの使用法の理解			1
	11	寒冷療法各論(コールドパック、アイスバッグ、クリッカー)	事前:コールドパック、アイスバッグ、クリッカーの概要理解 事後:コールドパック、アイスバッグ、クリッカーの使用法の理解			1
	12	光線療法総論・各論(分類・適応・作用・禁忌など)	事前:光線療法機器の理解 事後:光線療法の作用の理解			1
	13	光線療法実習(赤外線、レーザー)	事前:赤外線、レーザーの概要理解 事後:赤外線、レーザーの使用法の理解			1
	14	光線療法実習(赤外線、レーザー)	事前:赤外線、レーザーの概要理解 事後:赤外線、レーザーの使用法の理解			1
	15	まとめ	事前:前期に学んだことの理解 事後:前期に学んだことの整理			1
授業方法	講義と実習					
評価方法	ペーパーテスト、授業態度により総合的に判断する。					
テキスト	庄本康治/編 『エビデンスから身につける物理療法』 羊土社					
参考文献	上杉雅之/監 『イラストでわかる物理療法』 医歯薬出版					
履修上の注意事項	実習時には、着脱の容易な服装で授業に臨むこと					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	物理療法Ⅱ	担当教員	能登 洋平		
		実務経験			
実習内容	PT・ATで経験したトレーナー活動を教育現場で指導				
授業概要	この授業の目的は、理学療法士の治療方法の一つである「物理療法」について、その特徴と治療方法について学んでいく。				
達成目標	①各物理療法機器の特徴と使用方法を理解する。 ②疾患、症状に合わせて的確な物理療法機器の選択ができる。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	電気刺激療法(電気生理)	事前:電気の基本知識の理解 事後:電気療法の総論の復習	1	
	2	電気刺激療法各論(低周波、高周波、中周波)	事前:電気治療機器の理解 事後:電気治療機器の使用法の理解	1	
	3	電気刺激療法各論(低周波、高周波、中周波)	事前:電気治療機器の理解 事後:電気治療機器の使用法の理解	1	
	4	電気刺激療法実習	事前:電気治療機器の使用法の理解 事後:電気治療機器の使用法の復習	1	
	5	電気刺激療法実習	事前:電気治療機器の使用法の理解 事後:電気治療機器の使用法の復習	1	
	6	牽引療法総論、各論(適応、禁忌、作用など)	事前:牽引療法機器の理解 事後:牽引療法機器の使用法の理解	1	
	7	牽引療法総論、各論(適応、禁忌、作用など)	事前:牽引療法機器の理解 事後:牽引療法機器の使用法の理解	1	
	8	水治療法総論	事前:水の基本知識の理解 事後:水治療法の総論の復習	1	
	9	水治療法各論(気泡浴、過流浴、水中運動療法)	事前:水治療法の使用法の理解 事後:水治療法機器の使用法の復習	1	
	10	水治療法各論(気泡浴、過流浴、水中運動療法)	事前:水治療法の使用法の理解 事後:水治療法機器の使用法の復習	1	
	11	機械的・力学的療法実習(徒手療法実習)	事前:足関節の機能解剖の理解 事後:徒手療法の実施法の整理	1	
	12	機械的・力学的療法実習(徒手療法実習)	事前:膝関節の機能解剖の理解 事後:徒手療法の実施法の整理	1	
	13	機械的・力学的療法実習(徒手療法実習)	事前:脊柱関節の機能解剖の理解 事後:徒手療法の実施法の整理	1	
	14	機械的・力学的療法実習(徒手療法実習)	事前:肩関節の機能解剖の理解 事後:徒手療法の実施法の整理	1	
	15	まとめ	事前:後期に学んだことの理解 事後:後期に学んだことの整理	1	
授業方法	講義と実習				
評価方法	ペーパーテスト、授業態度により総合的に判断する。				
テキスト	庄本康治/編 『エビデンスから身につける物理療法』 羊土社				
参考文献	上杉雅之/監 『イラストでわかる物理療法』 医歯薬出版				
履修上の注意事項	実習時には、着脱の容易な服装で授業に臨むこと				

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	運動療法 I		担当教員	岡林 豊		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	運動器系の解剖、生理、反射理論、学習理論の基礎的原理と各種運動療法の具体的治療方法との関係を説明する。					
達成目標	運動療法の基礎的な原理と方法を学び、基礎的な運動療法が実施できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	運動療法総論	事後:講義内容の復習		1	
	2	関節について	事前:解剖の復習 事後:講義内容の復習		2	
	3	関節可動域制限、結合組織	事後:講義内容の復習		1	
	4	運動の基本	事後:講義内容の復習		1	
	5	関節可動域運動、伸張運動	事後:講義内容の復習		1	
	6	関節可動域運動、伸張運動(実技)	事後:講義内容の復習		1	
	7	筋肉について	事前:解剖の復習 事後:講義内容の復習		2	
	8	筋力の概念	事後:講義内容の復習		1	
	9	筋力増強運動	事後:講義内容の復習		1	
	10		事後:講義内容の復習		1	
	11	筋持久力・全身持久力増強運動	事後:講義内容の復習		1	
	12		事後:講義内容の復習		1	
	13		事後:講義内容の復習		1	
	14	筋力増強運動(実技) 筋持久力・全身持久力増強運動(実技)	事後:講義内容の復習		1	
	15		事後:講義内容の復習		1	
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記試験					
テキスト	吉尾雅春/編 標準理学療法学 『運動療法学 総論』 医学書院					
参考文献						
履修上の 注意事項	実技のときは動きやすい服装に着替えること					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	運動療法Ⅱ		担当教員	岡林 豊		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	運動器系の解剖、生理、反射理論、学習理論の基礎的原理と各種運動療法の具体的治療方法との関係を説明する。					
達成目標	運動療法の基礎的な原理と方法を学び、基礎的な運動療法が実施できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	全身調整運動	事後:講義内容の復習		1	
	2		事後:講義内容の復習		1	
	3	リラクセーション	事後:講義内容の復習		1	
	4	協調性運動	事後:講義内容の復習		1	
	5		事後:講義内容の復習		1	
	6	神経筋再教育・神経生理学的アプローチ	事後:講義内容の復習		1	
	7		事後:講義内容の復習		1	
	8		事後:講義内容の復習		1	
	9		事後:講義内容の復習		1	
	10	基本動作獲得・改善	事後:講義内容の復習		1	
	11		事後:講義内容の復習		1	
	12	水中運動療法	事後:講義内容の復習		1	
	13	治療体操、リスク管理	事後:講義内容の復習		1	
	14	運動学習	事後:講義内容の復習		1	
	15		事後:講義内容の復習		1	
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記試験					
テキスト	吉尾雅春/編 標準理学療法学 『運動療法学 総論』 医学書院					
参考文献						
履修上の注意事項	実技のときは動きやすい服装に着替えること					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	日常生活活動 I		担当教員	久保 明裕		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	①日常生活活動(ADL)の概論を学習する。 ②日常生活を営む上で必要な基本的動作や、ADL支援機器を用いた動作について実技を通して学習する。					
達成目標	日常生活活動(食事・更衣・入浴・排泄・整容移動など日常生活に必要な活動)について 理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	ADLの概念と範囲、ADL分類	事前:理学療法概論(ICF/QOL)を復習 事後:講義内容の復習			2
	2					
	3	ADL動作の構成要素	事前:ADLと基本的動作動作との関連 事後:講義内容の復習			2
	4					
	5	基本的動作の観察と分析	事前:ADLと基本的動作動作との関連 事後:講義内容の復習			2
	6					
	7	ADL動作の観察と分析	事前:ADLと基本的動作動作との関連 事後:講義内容の復習			2
	8					
	9	ADL評価方法の確認と体験	事前:ADL内容の確認 事後:講義内容の復習			2
	10					
	11	ADL支援機器の種類と設定体験	事前:支援機器の種類 事後:講義内容の復習			2
	12					
	13	ADL支援機器の操作体験	事前:支援機器の設定方法 事後:講義内容の復習			2
	14					
	15	支援機器と自助具の見学と体験	事前:機器の種類と特徴 事後:体験内容の復習			1
授業方法	講義、実技実習を中心に進めていく。					
評価方法	筆記試験、授業態度					
テキスト	千住秀明/編 理学療法学テキストV 『日常生活活動(ADL)』 神陵文庫					
参考文献	柴喜崇/編 PT・OTビジュアルテキスト『ADL』 羊土社 斎藤宏/他著 『姿勢と動作』 メディカルフレンド社 鶴見隆正/編 標準理学療法学 『日常生活活動学・生活環境学』 医学書院					
履修上の 注意事項	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	日常生活活動Ⅱ		担当教員	久保 明裕		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	①日常生活活動(ADL)と障害について学習する。 ②代表的な疾患における日常生活活動の動作介助及び指導方法を学習する。 (ADL支援機器を用いた動作も含む)					
達成目標	疾病ごとの日常生活活動(食事・更衣・入浴・排泄・整容移動など日常生活に必要な活動)について理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	ADLの運動学的分析	事前:重心移動・てこの原理を復習 事後:講義内容の復習		1	
	2	脳卒中片麻痺に対する動作介助及び指導方法について(ADL支援機器を用いた動作も含む)	事前:脳卒中の病態を復習 事後:講義内容の復習		2	
	3					
	4					
	5	パーキンソン病に対する動作介助及び指導方法について(ADL支援機器を用いた動作も含む)	事前:パーキンソン病の病態を復習 事後:講義内容の復習		2	
	6					
	7					
	8	脊髄損傷(四肢麻痺・対麻痺)に対する動作介助及び指導方法について(ADL支援機器を用いた動作も含む)	事前:脊髄損傷の病態を復習 事後:講義内容の復習		2	
	9					
	10					
	11	下肢骨折(手術後)に対する動作介助及び指導方法について(ADL支援機器を用いた動作も含む)	事前:下肢骨折手術後の後療法を復習 事後:講義内容の復習		2	
	12					
	13					
	14	呼吸器疾患・循環器疾患に対する動作介助及び指導方法について(ADL支援機器を用いた動作も含む)	事前:呼吸器・循環器疾患の病態を復習 事後:講義内容の復習		2	
	15					
授業方法	講義、実技実習を中心に進めていく。					
評価方法	筆記試験、授業態度					
テキスト	千住秀明/編 理学療法学テキストV 『日常生活活動(ADL)』 神陵文庫					
参考文献	柴喜崇/編 PT・OTビジュアルテキスト『ADL』 羊土社 斎藤宏/他著 『姿勢と動作』 メヂカルフレンド社 鶴見隆正/編 標準理学療法学 『日常生活活動学・生活環境学』 医学書院					
履修上の注意事項	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法治療学総論		担当教員	池尾 忠思		
			実務経験	○		
実習内容	リハビリテーションの知識、技術を指導					
授業概要	リハビリテーションで扱う障がいと主な疾患別リハビリテーションの実際について学習する。					
達成目標	理学療法士として必要な治療学の基礎的知識を身につける。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	障がい別リハビリテーションの実際 (関節拘縮と関節可動域訓練)		事後:関節可動域の復習		1
	2	筋力低下と筋力増強訓練		事前:筋力について予習 事後:筋力について復習		2
	3	"		事前:筋力低下について予習 事後:筋力増強訓練について復習		2
	4	運動麻痺と神経筋再教育		事前:運動麻痺について予習 事後:運動麻痺について復習		2
	5	"		事前:神経麻痺について予習 事後:神経筋再教育について復習		2
	6	摂食・嚥下障がい		事前:摂食について予習 事後:摂食障がいについて復習		2
	7	"		事前:嚥下について予習 事後:リ嚥下障がいについて復習		2
	8	老化・排泄障がい		事前:老化について予習 事後:老化について復習		2
	9	"		事前:排泄について予習 事後:リハビリについて復習		2
	10	疾患別リハビリテーションの実際 (脳血管障がい)		事前:脳血管障がいについて予習 事後:病態について復習		2
	11	"		事前:脳血管障がいについて復習 事後:リハビリについて復習		2
	12	疾患別リハビリテーションの実際 (脊髄損傷)		事前:脊髄について予習 事後:病態について復習		2
	13	"		事前:脊髄損傷について復習 事後:リハビリについて復習		2
	14	疾患別リハビリテーションの実際 (脳性麻痺)		事前:脳について予習 事後:病態について復習		2
	15	"		事前:脳性麻痺について復習 事後:リハビリについて復習		2
授業方法	適宜プリントを配布し、ポイントをノートにまとめる。					
評価方法	筆記試験、出席率、授業態度					
テキスト	なし					
参考文献	最新リハビリテーション医学 標準リハビリテーション医学 リハビリテーション総論					
履修上の 注意事項						